

令和7年度農村振興・環境保全優良活動 知事賞受賞団体の紹介

あくぼ

阿窪地域資源保全向上活動組織（黒部市）

次の活動を通じて、「誰もが来たくなる『ここに古里在り』」の地域づくりを目指す。

＜農地・水・環境の保全＞

平成20年度から「農地・水・環境保全向上対策（現：多面的機能支払交付金）」を活用し、定期的な草刈り、除草剤散布、江ざらいなどを行い、農用地、水路、農道、ため池の維持管理に努めている。

＜地域活性化イベント＞

地元の有志団体「阿古屋野いいとこ会」と連携し、休耕田でソバを育て、関連イベントを年間通して開催。令和6年度は7月にソバ種まき体験会、10月にソバ刈り取り体験会を実施し、子どもから大人まで幅広い層が参加。11月の収穫祭（そば祭り）では、地域で採れた野菜の販売も行い、他地域から100名以上の来場者を集める盛況ぶり。

＜鳥獣被害対策＞

イノシシ対策に注力。令和6年度は防護柵の保守管理を徹底し、監視カメラ5台を設置し状況確認を強化。また12月には組織で電気柵の設置方法や獣害対策に関する研修を積極的に実施し、対策を強化。



ソバの種まき体験

なかしんでん

中新田集落協定（富山市）

次の活動を通じ、効率的な農業と地域連携による持続可能な農村づくりに取り組む。

＜機械導入と共同管理＞

堆肥散布機や溝切機等を導入し、共同で管理。個人負担軽減と効率的な農業を実施。令和6年度には格納用のビニルハウスを設置し、農業機械や資材の保管等に活用。

＜農作業の効率化＞

防除作業では、農業者個人が動噴を使う代わりに、ラジコンヘリによる農薬散布を外部に依頼し、作業の効率化とコスト削減を実現。

＜食育活動と地域連携＞

多面的機能活動団体と連携し、保育園の児童等を対象に田植えや野菜収穫体験を提供。令和7年度には、子ども食堂への野菜提供を目指すなど地域貢献にも取り組む。



長大な法面での共同草刈り

さぶろうまる

三郎丸地区農地・水・環境保全会（砺波市）

次の活動を通じて、地域の農地を守り、魅力ある農村環境を次世代へと繋ぐための取り組みを続けている。

<美しい農村景観の形成>

農道沿いや用水路の法面に芝桜を植栽し、春の開花期には地域住民だけでなく、観光客の目を楽しませ、地域の魅力を発信するなど農村活性化にも貢献。

<遊休農地の有効活用と教育活動>

児童クラブと連携し、子どもたちによるさつまいもの栽培・収穫体験を実施。自然や食への関心を高めるとともに、世代間交流や農村文化継承、遊休農地解消にも寄与。新興住宅地からの参加者も多く、地域交流と多面的機能の理解促進に繋がっている。

<作業負担軽減と環境保全>

高齢化に対応した草刈り負担軽減のため、防草シートを設置。雑草や害虫の発生を抑制し景観や環境を保全。



遊休農地を利用した
サツマイモ栽培・収穫体験

こざか

小坂環境保全会（南砺市）

次の活動を通じて、地域の環境保全と持続可能な農業の実現を目指す。

<地域資源の保全活動>

平成 19 年度から「農地・水・環境保全向上対策」を活用し、農地の保全に注力。人手不足には、地元建設会社と連携し多様な人材を確保。

<スマート農業への挑戦>

県営のほ場整備、団体営の情報通信インフラ整備計画を推進。自動排水システムや農機の自動走行など、令和 9 年度以降のスマート農業の導入を目指す。

<除草ロボットの活用>

地域負担で除草ロボットを導入。ロボットと協働し、草刈り作業を効率的かつ安全に実施。ほ場整備後の除草管理にも草刈りロボットを積極的に活用する予定。

<遊休農地の再生>

長年使われていなかった農地を復元し、大麦を作付け。これにより遊休地を活用し、ほ場整備対象に含められ、大区画化が実現。

<水路の漏水対策>

早期の改修が望まれる水路には、ほ場整備事業との重複投資を避けるためブルーシートを活用して漏水対策を行い、用水の安定供給を確保。



地元企業の外国人労働者も交えた
地域協働の泥上作業